

愛知県環境影響評価審査会知多火力発電所部会 会議録

1 日時 2025 年 2 月 27 日（木）午前 10 時から午前 10 時 40 分まで

2 場所 愛知県環境調査センター 1 階 第 1 会議室

3 議事

（1）知多火力発電所 7，8 号機建設計画 環境影響評価準備書について

4 出席者

（1）委員

大石部会長

【オンライン出席】

阿部委員、市野委員、長田委員、片山委員、橋本委員、宮崎委員

（以上 7 名）

（2）事務局

環境局：平野技監

環境局環境政策部環境活動推進課：

和田課長、鈴木担当課長、國立課長補佐、猿渡主査、渥美主査、加登技師

（以上 7 名）

（3）事業者等

5 名

5 傍聴人

なし

6 会議内容

（1）開会

・ 会議録の署名について、大石部会長が阿部委員と長田委員を指名した。

（2）議事

知多火力発電所 7，8 号機建設計画 環境影響評価準備書について

・ 資料 2 から資料 4 について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

【片山委員】公聴会であったような住民の方からの反対意見等に対して、どのように解決して進めていくのか教えていただきたい。

【事務局】今後、事業者において住民等からの意見にも配慮しながら計画を考え、評価書を作成していく。また、事業者が新たに作成し公表している「環境影響評価準備書あらまし 資料編」も使いながら住民等の理解の促進に努めていくものと考えている。

【片山委員】エネルギーの問題は、ものすごく身近で大事なことであるので、できる

限り理解を求める努力をしていただくことを望む。

【長田委員】資料2の私が前回指摘した内容について、輸送船における大気質への影響はそれほど大きくはないだろうとは思っていた。ただし、名古屋港全体への入港数が増えるかどうかということよりも、知多火力の工事に関わる荷揚げをするために陸に近づくことが近隣に影響するか否かを予測することが重要である。大気質には大きな影響はないということを示していただくことが望ましい。

例えば、停泊中はメインエンジンを停止する条件と、エンジンが稼働して負荷が最大となる条件で予測して、結果の幅を数値的に示しておけば、影響の有無を明確にできる、というのが希望である。

【事務局】評価書への記載について、事業者において検討する。

【阿部委員】本事業は必要な発電量を確保するために実施することは理解しているが、公述人等からの反対意見も真摯に受けとめて、誠意を持ってご対応いただくようお願いしたい。

【事業者】公述人等からの意見については真摯に受けとめ、どういった対応ができるか検討して参りたい。

・ 資料5について、事務局から説明があった。

【長田委員】部会報告案の6（1）に公表時における利便性の向上を付け加えたとのことであるが、どの程度の内容を公表するか明示的でない。具体的に公表の方法を書いたほうがいいのではないかと。

【事務局】今回、事業者である（株）JERAは「環境影響評価準備書あらし 資料編」を公表するなど一定の対応を行ったことも踏まえた上で、これまでと同様に限定した内容を求め続けるのではなく、住民等への利便性向上についてより幅広い形で努めていただきたいと事務局として考え、その方法を限定することなく、（1）に盛り込んだという考えである。

【長田委員】事務局からの説明を聞いた限り、図書の印刷を可能にすることやインターネット上からダウンロードできること、データ上から検索をしやすくすることなどの全てが含まれていることは理解した。一方で、「公表に当たっては、住民等の利便性の向上に努めること」という文章を読んだだけでは伝わりにくいと感じる。事業者が、この趣旨をよく理解した上で、将来的に利便性が高まる方法等を具体的に何か示していただければこの記載でも構わないが、一定のページ数が公表されたから、それでよしとするということであれば違和感はある。

【事務局】環境影響評価図書の継続的な公開については、環境省においても議論がされている。環境影響評価図書の著作権は事業者に帰属するという理由から、事業者との調整なしに環境省などが公開をしていくことはできない状況である。

今回、事業者において一定の対応がなされており、「環境影響評価準備書あらし 資料編」では、予測、評価の結果が全て記載され、事業計画の内容も閲覧することが可能な図書が継続して公開されている。事務局としては、今回このような形で対応がされたことから、利便性は向上したと考えている。

一方で、一般の方がどのように捉えているかは、現時点では判断しかねている。今回は、このような内容とさせていただき、今後の反応も見ながら、今後の部会報告や知事意見の内容の検討につなげていきたい。

なお、先ほど申し上げた環境影響評価図書の継続的な公表については、今、環境省で制度化の議論がされている。ただし、図書の継続的な公表に当たっては著作権の問題などがあるため、公開の範囲などを環境省が検討しており、その動向も注視してまいりたい。

【長田委員】著作権のことには疑義があるが、事務局の考えは了解した。

【大石部会長】事業者に利便性の向上に努めることを受けとめてもらうということではないか。今後、この問題が指摘されるようなことがあれば、そのときに考えるべきだとは思う。

【片山委員】一般の人にもわかりやすくなるよう、評価書の作成においてわかりやすい文言を使っていたいただくことをお願いしたい。

【事務局】部会報告案の6（1）において、住民等の理解促進の向上に努めることを求めており、分かりやすい図書の作成も含めて求めている。

また、環境影響評価図書本編は厚い図書となっており、一般の方には難しい内容となっているが、事業者において準備書を簡素化したあらましを作成している他、一般の方向けに説明会を開催し、パワーポイント資料を使って要点を絞って説明がされている。

【大石部会長】車両台数の平準化とあるが、工事期間中に車両が非常に集中する場合もあれば、そうでない場合もあり、この差が激しいということだと思う。今回の騒音予測においては、車両が集中しているピークのときに予測しているのか。また、そのピークはどのような状況になっているかを教えていただきたい。例えば1～2日間の間に非常に集中するのか、あるいは1週間ぐらいなのか、それとも割と分散しているものなのか教えていただきたい。

【事務局】準備書に工事関係車両の月別交通量を示したグラフがあり、26か月目に小型車両に換算した工事車両台数が最大となっている。グラフは1か月単位となっており、26か月目を最大の車両台数として予測評価している。

【大石部会長】1か月単位であると、短期的な1～2日間といった非常に集中する場合は分からないが、そのような事態は起こりえるのか。

【事業者】月単位でならした数字ではあるが、車両台数が最もピークとなるのは、コンクリートの打設時期となると思われ、概ね準備書で示した数値内で収まってくると予測している。

【大石部会長】了解した。

【大石部会長】事務局から説明のあった部会報告（案）について、特段、修正を要する意見はないため、この案のとおり部会報告としてよろしいか。

（委員から意見等なし）

【大石部会長】異議なしとされたので、このまま部会報告とする。

（3）閉会